



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

限りある命のままに 限りなきいのちに成る

この夏に、若坊守が京都の西山別院

で得度講習を受けました。それに先立つ得度講習会は一月末、二日間のオンライン講習で修了しましたが、本番は猛暑の京都で十一日間、長丁場の習礼です。母親と一度も離れたことのない二人の孫は「八月の得度もオンラインでやってもらおうよう、じいちゃん本山に頼んでよ」と言いますが、それは如何ともしがたく、苦笑するばかり!

更にもう一つ、事前に「正信念仏偈」は聖典を見ずにお勤めできるように、という課題があり、母親思いの孫の提案で家族そろって夕方のお参りを、みんな聖典を見ないでお勤めします。大体、覚えていないつもりですが、誰か(?)が間違えたとつられて皆間違え、「嫌に早く終わってしまったね」と苦笑いしてやり直すこともあります。

どこが間違い易いのかといえ、ば、「天親菩薩造論説」が最初で、そこから十七行後に「天親菩薩論註解」が出てくるのですが、最初に「天親菩薩論註偈」と称えると、十七行飛ばしてしまふ訳です。何十回、何百回、いや何千回もお勤めしながらお恥ずかしい



ばかり・・・。

さて親鸞聖人は、出家以降、範宴、善信、綽空、そして最終的に天親菩薩の「親」と曇鸞大師の「鸞」を合わせて「親鸞」と名乗られた訳ですから、天親菩薩と曇鸞大師は七高僧様の中でも特に大切にしなければなりません。親鸞聖人は、その曇鸞大師の行績を讃嘆され、「正信念仏偈」に

本師曇鸞梁天子 常向鸞処菩薩礼
 三蔵流支授浄教 焚焼仙経帰楽邦
 と記されています。

意味は「我が師、曇鸞大師は、梁の天子・武帝が常に大師のまします方角に向かい「菩薩よ」と礼拝された。(かつて不老長生の秘法を学んでいた時、インドから渡来した)三蔵法師・菩提流支に浄土経典を授けられ、神仙の秘法(仙経)を焼き捨てて、阿弥陀如来の浄土(楽邦)に生まれんと願う念仏者となった」ということです。

続いて曇鸞さまは「天親菩薩の『浄土論』を註釈した『浄土論註』を著し、私たちが仏の国(報土)に生まれるのも、成仏の結果として衆生を済度するのにも全て仏の誓願によることを顕かに

☆行事ご案内☆

◇7月の門信徒会例会(第3日曜の朝)

7月18日(日)午前8時半 新行事様必ず出席を!

①「ワクチン敗戦」の理由?②今後の寺の活動について

◇絵手紙教室(7月13日第2火曜午前10時) コロナの状況で判断。メンバー各位にはLINEで連絡します。

◇歌声広場(7月15日第3木曜午後1時) コロナの状況で判断。メンバーには連絡網の電話連絡

◇5時の鐘撞き 年中無休!ご褒美のガムとチョコ進呈 撞いた後は合掌して「ちかい」「ブツダが先生」を唱和

◇8月の予定 コロナの状況で変更する場合があります

※『孟蘭盆会法要』8月14日(土)朝8時半

本堂、納骨堂、有縁の方お参り下さい。

※『秋季永代経法要』講師:九條孝義先生(滋賀)

8月21日(土)午後1時半

22日(日)午後1時半:お経開きは21日午前10時半

◇一縁会テレホン法話 059・354・1454で3分法話、三重組5か寺の住職・若院らが3分法話、

◇百五銀行門徒展の作品大募集、第10回目で10月開催

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索1年分の寺報閲覧可、毎日更新のブログ『住職と坊守のつれづれ日記』

大好評。開設12年11カ月で34万9千訪問。お悩み相談可

◇新納骨堂後継者の無い方お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所法事場所でお困りの方本堂使用可ご相談下さい



し、浄土に往くのも仏と成って衆生を導くのも全て阿弥陀如来の誓願・他力によるのであり、必ず仏に成ると定まるのは唯、信心による」と説かれています。いつも唱和する正信偈は実に、「心惑い、悪に染まった者でも信心を発せば生死の身のまま、涅槃(さと)り」を得る。必ず、無量光明土(浄土)に至り、あらゆる衆生を普化(救済)する身となる」と説かれます。

限りある命のままに、限りなきいのちに成る道、それが浄土真宗です。暗唱しなくてもよいので、皆さん「正信偈」をよく読み、お味わい下さい。

☆ 写真アラカルト ☆



坊守スケッチ ワクチン予約騒動



7月号の寺報が皆様のお手元に届く頃には、皆様はコロナワクチン接種を済ませられたでしょうか？おそらく1回目は接種したが、2回目はまだとか、7月以降にかかりつけ医で接種する人が大半ではないでしょうか？

私は1回目が6月21日、2回目はその3週間後に電話予約で取れました。

5月7日住職に予約券が届きました。「自分でパソコンから予約できるから簡単だ」と張り切っていました。現実には厳しく一日目は全く繋がっていませんでした。三日目にやっと繋がったように大喜び！住職は運転できるからいいのですが、高齢の一人暮らしの方はお困りだろうと思って、知り合いに尋ねました。予想通り、彼女も予約センターへ何度も電話しましたが、お話しばかり。そこで私は彼女の登録番号と生年月日を聞いて、私のパソコンとスマホで同時に、代理で予約を試みました。しかし百回以上試しても繋がりません。とうとう諦めて、「その内かかりつけ医でも接種できるから待つてみる？」と告げました。

私の予約失敗談を聞きつけた方々からコメントが寄せられました。「百回では修行が足りない。我が家は娘と息子を総動員して四六〇回して成功した」という方がいました。「そうか、ワクチン予約騒動は、いざ

という時の親子の絆の再確認にもなったのだ」と気づきました。

ある親切な女性から「市の広報で発見して、A病院へ直接電話したらすぐに受け付けてくれました」という情報を得ました。先程の独居女性にも伝えると、彼女もすんなりと6月中旬の予約ができたと言いました。かかりつけ医だとお盆の頃の予約だそうです。

今回のワクチン騒動で多くの事を学びました。先ずまさかの時の準備を常に怠りなくせよという事。次に弱者の視点でいつも事を進めよという事。高齢者のWeb予約が無理なことは明白、運転もできない高齢者を遠くの会場へ連れて行く手段や長時間待たせるのも、体力的に無理なこととも明白です。やがて誰しも年老いて体の自由が利かない日を迎えます。そんな時、「近所同士、お互い様と助け合う『互助』が如何に大切かを学びました。

俳壇

伸び盛り筍のごと少女の背 釋妙水

焦げパンや味噌す旨み麦の秋

麦藁の揃いの帽子幼児のバス

宙ぶりの糸の青虫若葉風 釋榮邦

くねり往く小蛇の細き舌チロロ

全身を砂まみれにし這うミミズ

夏草や木漏れ日浴びて光りをり釋清風

雨上がりアジサイロードの藍増せり

曾祖母の写真と遺骨早星 釋秀龍

若坊守の子育て日記79

我が家の長男は、四年生に進級してから宿題が増えました。毎日「漢字・計算・本読み」は今まで通りですが、これに「自主勉強」が加わりました。毎日となると、何をやるうか頭を悩ませていくようです。「なんで毎日やらなきゃダメなの？」と言うので、「自分で何がやれるか、やりたいかを考えるのも勉強だし、興味あることを深掘りするの楽しいよ！」というようなことを初めに言いました。

長男は先ず、連載四回の自作の謎解き小説を書きました。結末を考えずに書いていたらしく、話の展開をどうしようか悩みながら書いていました。

その後は、何度かに分けて日本地図に山地・山脈や川、半島名を書き込んでいました。ある時、ネタ切れして困っている長男に、毎朝届く小学生新聞の切り抜きをそっと渡しました。興味のあるような歴史や時事問題の記事を選びますが、毎回採用されるわけではなく、「ボツ！」と言われることも…。

良く出来たものは先生が後ろの黒板に貼って下さるそうで、「貼ってもらえた！」と嬉しそうに帰ってくる日もあります。他の子は、絵日記や県名・県庁所在地やテッサンなどをしていくそうです。いいなと思っただけはほとんどん参考にして、楽しく続けて欲しいなと思います。

寺町の路地夕焼けにしずみをり
テスト中象の形の夏の雲

謹んでお悔み申し上げます

★鎮てる子機(5月11日往生、93歳、前田町)合掌

カンバありがとう

栗本洋子様、他匿名様、有難うございました。

ホットニュース&お知らせ

※6月20日の門信徒例会は三重県が緊急事態発令中に付き、相談の上急遽中止が決定しました。三重組の行事も6月一杯全ての行事が中止になりました。本当に残念ですが、日本中が自粛中なので仕方ありません。従って絵手紙も歌声も6月はお休みです。7月の行事(例会・絵手紙・歌声)は予定していますが、状況に応じて変更するかもしれません。ご了承下さいませ。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」三三一号をお届けします。◇コロナ禍始まって一年半、自粛疲れ、コロナ鬱から早く解放されたくて、ワクチン接種に長蛇の列。夏の東京五輪、パラ大会を経てこれがどう変わるのか、誰も予測はできません。◇一面法話で若干触れた通り、今夏若坊守が得度習礼(しゅらい)を受けられます。コロナ感染爆発ならば中止されるかもしれません。課題の勉強や法衣等準備中。無事受式してほしいと願っています。◇丁度六十年前の八月、高校一年生の小生が得度式を受けてから、暦一巡！まさに光陰矢の如しです。◇人心動揺、世情混乱の夏、お浄土に還帰された方々を偲び、心静かに合掌。

いよいよ東京オリンピック開催の月を迎えました。国民の大半が中止を求める中での開催、ワクチン接種が進んでいるとはいえ依然予断を許さない危険な状況です。大幅に縮小、制限をしての開催とはいえ、コロナの再拡大につながりはしないかと気が気ではありません。世界的大イベントとはいえ様々な人々の思惑や利益が絡んで一筋縄では決断できず、日本は貧乏くじを引いたような心境です。どんな結末を迎えようとも国民の一人としてその代償を背負わねばなりません。お寺の置かれた状況も同じです。次々と行事の中止が決まり寂しい限りです。せつかく築いてきた人々の絆も脆く消え去ってコロナ後のお寺の活動をどのように維持すればいいのかと悩んでいます。お寺に参詣された方々の高齢化と後継者不足等、不安材料が並びます。私達の老いも迫っています。今までと同じような行事や活動は望めませんが現状を鑑みて今できることを精一杯勤めさせて頂きます。ところで台湾の天才IT大臣オードリー・タン氏は「EQ(頭の良さ)よりもEQ(心の智慧)を育てよう。コロナで失われた生命は多いが、よりよく繋がること。つまり「共感する心」を持つことで世界は救われること言いました。共感する心は充分な睡眠と運動と自然に接する規則正しい生活で養われます。お寺も「心の智慧」を育て授ける活動を目指します。この先厳しい暑さとコロナ感染再拡大が心配ですがくれぐれもご自愛下さいませ。合掌

令和三年七月

善正寺坊守 拝